

ウナギツカミ	<i>Persicaria sagittata</i> (L.) H.Gross var. <i>sibirica</i> (Meisn.) Miyabe	準絶滅危惧
		タデ科
選定理由	河川・水辺の改修工事による人工化のため生育条件が悪化、産地が減少している。	写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	一年草。茎は下向きの刺毛があり、高さ30－90cm。托葉鞘は斜めの切れ無毛。花は頭状に集まり、花柄は無毛。	
生態的特徴	水辺や溝に生育する。	
分布状況	北海道・本州・四国・九州に分布する。岐阜県では、長良川に沿って美濃地方に分布する。	
減少要因	河川改修や溝などのコンクリート化による生育地の条件の悪化。また、農薬使用の影響も考えられる。	
保全対策	河川・水辺の生育環境の保全。	
特記事項		
参考文献		

文責：須賀瑛文